

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年8月9日

【四半期会計期間】 第101期第1四半期
(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 フジ日本精糖株式会社

【英訳名】 Fuji Nihon Seito Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 曾 我 英 俊

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋兜町6番7号

【電話番号】 03 - 3667 - 7811 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部本部長 大 橋 高 弘

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋兜町6番7号

【電話番号】 03 - 3667 - 7811 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部本部長 大 橋 高 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第100期 第1四半期 連結累計期間	第101期 第1四半期 連結累計期間	第100期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	5,336,690	6,026,078	22,677,852
経常利益 (千円)	608,093	1,251,444	2,124,050
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	480,992	963,867	1,672,947
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	544,262	1,267,408	2,025,497
純資産額 (千円)	19,908,141	22,325,108	21,514,208
総資産額 (千円)	25,936,451	29,845,165	28,256,487
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	17.91	35.90	62.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	76.9	74.6	75.9

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(機能性素材)

当第1四半期連結会計期間より、機能性食品事業の拡充を目的とし、中華人民共和国において上海唯霓食品有限公司を新規設立し、持分法適用関連会社へ含めております。

この結果、2023年6月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社6社、関連会社5社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による経済社会活動への制限緩和が進み、景気の回復が見られました。その一方で、原材料価格、エネルギー価格、物流費の高騰や為替相場の変動など、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境下、当社グループでは、品質管理の徹底を図り、顧客満足度を高めるため、精糖は製品の安定供給に取り組み、機能性素材は高付加価値提案型の販売活動に引き続き取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高6,026百万円（前年同期比12.9%増）、営業利益465百万円（同2.1%減）、経常利益1,251百万円（同105.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は963百万円（同100.4%増）の増収増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

精糖

新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和が進んだことでGWなどは各地で人流が増え、土産物である菓子を中心に製品の荷動きが活況になったものの、販売数量はほぼ前期並みでありました。しかしながら、利益面では、海外原糖相場やエネルギー価格など、コスト上昇に販売価格が追いついてきたことにより採算性が改善できました。

以上の結果、精糖事業の業績は、売上高3,090百万円（前年同期比11.7%増）、営業利益360百万円（同42.4%増）の増収増益となりました。

機能性素材

機能性食品素材イヌリンは、海外販売にて新型コロナウイルス感染症からサプライチェーンに回復が見られたことにより、販売競争が激化し、販売数量は減少しました。また、それによりタイ国にてイヌリン製造を行っている連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.の製造数量が減少したことにより製造コストが上昇し、減収となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、主力のゼラチン、コラーゲンで販売数量が大きく伸長した結果、増収増益となりました。

以上の結果、機能性素材事業の業績は、売上高2,780百万円（前年同期比20.5%増）、営業利益199百万円（同39.9%減）の増収減益となりました。

不動産

不動産事業の業績は、売上高143百万円（前年同期比0.0%増）、営業利益133百万円（同0.2%減）とほぼ前期並みとなり、引続き安定収益確保に貢献いたしました。

その他食品

その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心ですが、前連結会計年度において連結子会社DAY PLUS (THAILAND) Co., Ltd.の株式の一部を売却したことにより、同社が連結の範囲から除外され、業績は売上高11百万円（前年同期比90.3%減）、営業利益1百万円（同87.0%減）の減収減益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ5.6%増加し、29,845百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各財政状態の変動状況は、次のとおりであります。

資産

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ7.7%増加し、15,366百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加等によるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ3.5%増加し、14,478百万円となりました。これは主に投資有価証券の増加等によるものであります。

負債

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ11.8%増加し、5,785百万円となりました。これは主に短期借入金の増加等によるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ10.8%増加し、1,734百万円となりました。これは主に繰延税金負債の増加等によるものであります。

純資産

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3.8%増加し、22,325百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費等に係る会計基準による研究開発活動の総額は、15百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社の研究開発活動についての重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社及び提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績に著しい変動はありません。

(7) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい異動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画についての著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,748,200	29,748,200	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	29,748,200	29,748,200		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年6月30日		29,748,200		1,524,460		2,366,732

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 自己保有株式 2,896,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,836,900	268,369	
単元未満株式	普通株式 15,000		
発行済株式総数	29,748,200		
総株主の議決権		268,369	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,100株(議決権21個)含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) フジ日本精糖株式会社	中央区日本橋兜町6番7号	2,896,300		2,896,300	9.74

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,875,607	5,079,922
受取手形、売掛金及び契約資産	3,269,993	3,390,485
商品及び製品	2,884,272	3,684,030
仕掛品	180,038	138,151
原材料及び貯蔵品	1,572,804	1,303,618
その他	1,481,984	1,773,463
貸倒引当金	2,521	2,714
流動資産合計	14,262,179	15,366,957
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	343,261	360,482
機械装置及び運搬具（純額）	238,019	254,199
土地	2,527,435	2,527,435
建設仮勘定	82,841	104,112
その他（純額）	141,455	152,303
有形固定資産合計	3,333,013	3,398,534
無形固定資産		
その他	64,079	55,250
無形固定資産合計	64,079	55,250
投資その他の資産		
投資有価証券	8,375,478	8,856,832
関係会社長期貸付金	1,842,400	1,842,400
退職給付に係る資産	56,821	24,002
その他	335,552	314,233
貸倒引当金	13,037	13,045
投資その他の資産合計	10,597,215	11,024,422
固定資産合計	13,994,308	14,478,208
資産合計	28,256,487	29,845,165

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,742,322	1,870,187
短期借入金	2,230,300	2,983,100
未払法人税等	405,564	119,576
賞与引当金	153,215	71,807
その他	645,441	740,514
流動負債合計	5,176,843	5,785,185
固定負債		
繰延税金負債	1,007,033	1,164,521
資産除去債務	94,347	94,596
持分法適用に伴う負債	54,896	68,483
その他	409,158	407,269
固定負債合計	1,565,435	1,734,871
負債合計	6,742,279	7,520,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,460	1,524,460
資本剰余金	2,102,408	2,102,408
利益剰余金	16,097,588	16,604,974
自己株式	717,366	717,392
株主資本合計	19,007,090	19,514,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,483,766	2,799,761
為替換算調整勘定	3,373	1,054
退職給付に係る調整累計額	43,803	42,921
その他の包括利益累計額合計	2,443,337	2,757,894
非支配株主持分	63,780	52,763
純資産合計	21,514,208	22,325,108
負債純資産合計	28,256,487	29,845,165

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	5,336,690	6,026,078
売上原価	4,007,810	4,652,424
売上総利益	1,328,879	1,373,654
販売費及び一般管理費	853,476	908,469
営業利益	475,403	465,184
営業外収益		
受取利息	7,035	8,373
受取配当金	51,304	755,992
為替差益	52,077	6,302
持分法による投資利益	16,125	16,057
その他	10,048	8,084
営業外収益合計	136,591	794,810
営業外費用		
支払利息	3,862	8,541
その他	39	8
営業外費用合計	3,901	8,550
経常利益	608,093	1,251,444
特別損失		
固定資産除却損	-	2,924
解体撤去費用	-	3,932
特別損失合計	-	6,856
税金等調整前四半期純利益	608,093	1,244,588
法人税、住民税及び事業税	103,681	252,785
法人税等調整額	22,425	38,952
法人税等合計	126,106	291,737
四半期純利益	481,987	952,850
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	994	11,016
親会社株主に帰属する四半期純利益	480,992	963,867

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
四半期純利益	481,987	952,850
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	84,316	315,994
為替換算調整勘定	23,675	177
退職給付に係る調整額	1,634	882
持分法適用会社に対する持分相当額	-	2,497
その他の包括利益合計	62,275	314,557
四半期包括利益	544,262	1,267,408
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	545,366	1,278,425
非支配株主に係る四半期包括利益	1,103	11,016

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

「持分法適用の範囲の重要な変更」

当第1四半期連結会計期間より、2023年5月23日に新たに設立した上海唯霓食品有限公司を持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

次の関係会社について、金融機関からの借入れに対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
太平洋製糖(株)	187,500千円	175,000千円
DAY PLUS(THAILAND)CO.,Ltd. (外貨建)	17,438 (4百万パーツ)	6,811 (1百万パーツ)

なお、DAY PLUS(THAILAND)Co.,Ltd.の金額は「持分法適用に伴う負債」を控除しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	31,175千円	47,413千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月20日 取締役会	普通株式	349,074	13.00	2022年3月31日	2022年6月6日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月22日 取締役会	普通株式	456,481	17.00	2023年3月31日	2023年6月8日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	精糖	機能性 素材	不動産	その他 食品	計		
売上高							
精製糖、 砂糖関連製品	2,766,181				2,766,181		2,766,181
食品添加物		43,554			43,554		43,554
機能性食品		2,193,188			2,193,188		2,193,188
切花活力剤		70,396			70,396		70,396
製パン等				120,022	120,022		120,022
顧客との契約から 生じる収益	2,766,181	2,307,139		120,022	5,193,343		5,193,343
その他の収益			143,347		143,347		143,347
外部顧客への売上高	2,766,181	2,307,139	143,347	120,022	5,336,690		5,336,690
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,874		1,499	8,677	13,051	13,051	
計	2,769,056	2,307,139	144,846	128,700	5,349,742	13,051	5,336,690
セグメント利益	253,274	331,819	133,324	14,273	732,693	257,289	475,403

(注) 1 セグメント利益の調整額 257,289千円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	精糖	機能性 素材	不動産	その他 食品	計		
売上高							
精製糖、 砂糖関連製品	3,090,317				3,090,317		3,090,317
食品添加物		47,581			47,581		47,581
機能性食品		2,671,405			2,671,405		2,671,405
切花活力剤		61,684			61,684		61,684
パン類等				11,700	11,700		11,700
顧客との契約から 生じる収益	3,090,317	2,780,671		11,700	5,882,689		5,882,689
その他の収益			143,389		143,389		143,389
外部顧客への売上高	3,090,317	2,780,671	143,389	11,700	6,026,078		6,026,078
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,541		1,499	9,932	14,973	14,973	
計	3,093,859	2,780,671	144,888	21,632	6,041,052	14,973	6,026,078
セグメント利益	360,541	199,395	133,005	1,858	694,800	229,616	465,184

(注) 1 セグメント利益の調整額 229,616千円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	17.91円	35.90円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	480,992	963,867
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	480,992	963,867
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,851	26,851

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

2023年5月22日開催の取締役会において、2023年3月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり
期末配当を行うことを決議しました。

配当金の総額	456,481千円
1株当たりの金額	17.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年6月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

フジ日本精糖株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 箕輪恵美子

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 片山行央

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフジ日本精糖株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フジ日本精糖株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。